

## 企業立地推進事業

アナ： 『市長が語る 2021 三島』第 9 回の今日は、「企業立地推進事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 現在、三島市では企業の誘致活動にとっても力を入れているようですが、そこにはどのような狙いがあるのでしょうか。

市長： 他市と同様、三島市でも人口減少と少子高齢化が進み、事業者数や商業販売額に影響が出ています。これからの三島市はどうあるべきか、何が必要かを考え、三島市が最優先で取り組む施策として「観光振興」、「三島駅前の再開発」とともに企業誘致をすることとしました。

企業誘致のキーワードは「働く場所を増やし、働く人を増やす」です。魅力ある良好な働く場を確保しなければ、若者の流出を食い止めることはできず、人を増やすことができません。人が増えて、人の流れが変わることにより、地域も活性化します。

アナ： 企業誘致は税収確保にも繋がりますから、三島市が発展していくために、企業誘致は重要な鍵になりますね。

市長： 最近の大きな成果として、株式会社ファンケルのサプリメント工場の立地があります。物流や人材確保に適地ということで三島市を選んでいただき、今年の 4 月から生産が始まりました。ありがたいことに多くの地元での雇用があり、現在 80 人程の方が働いていらっしゃいます。なお、今後増産のため、更に人を増やすと聞いております。

また、三ツ谷工業団地でも、同じ時期に、新たな工場が操業しました。

アナ： 三ツ谷工業団地は箱根へ上がる国道 1 号沿いにできた新しい工業団地ですね。どのような工場ですか。

市長： ロックアイスなどの氷を作る工場です。北海道から九州まで全国に工場を持つ小久保製氷冷蔵株式会社が、三島の良質な水を大変気に入ってくださり、進出してくださいました。団地内の一番広い区画で、国道に面しているため、市民の皆様の中にもお気づきになった方がいらっしゃるかと思います。

アナ： どちらの会社も地元と社員を大切にしている優良企業で、採用に応募者が殺到したと聞いています。

三ツ谷工業団地は全区画で進出企業が決まっているのでしょうか。

市長： 全 6 区画のうち 5 区画が決まり、あと 1 区画、約 1 万坪の用地が残っています。工業用地の場合、規模が大きくなるほど経済情勢の影響を受けると言われておりまして、コロナ禍の今、この 1 区画も例外ではありません。

交渉中の案件も新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で先送りとなっていますが、コロナ収束後を見据え、積極的に誘致活動を行っておりますので、近い将来、良い結果に結びつくと思っております。

また三島市では、多様で柔軟な働き方を選択できるよう、オフィスの誘致にも取り組んでおりまして、他市に先駆けて賃料を補助する制度を作りました。

コロナ禍での新たな生活様式をきっかけに、必ずしも都心である必要がなく、広い空間である必要もないと気付き、賃料が安い地方へ移転するという流れが出始めており、企業の方からの問合せも増えております。

これからは移転先を決める際に「どこで働きたいか」が重視されるようになると思っておりますので、三島の特徴や魅力を積極的にPRしていきたいと思っております。

企業誘致はゴールではなく、あくまでも三島の将来の為のスタート地点です。三島市が発展できるよう、引き続き企業誘致や市内企業の定着を進めてまいります。

アナ： なるほど。三島市が元気な街であり続けるには企業誘致が大切であることが分かりました。1社でも多くの企業を誘致していただければと思います。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。